

トップダウン

2022.12.27

以前、テレビのコマーシャルの中で、日本を代表する大企業の社長さんが、次のようなことを話していた。「〇〇（企業名）のトップダウンはトップが下に降りることなんです」なるほどと思った覚えがある。

組織の意思決定や方向性を決めるときに、近頃は「ボトムアップ」が強調される。旧態依然とした社長やリーダーにあたる上からの指令や「トップダウン」がよしとされない風潮がある。スポーツの世界でも、選手からの提案や話し合いによって、作戦や練習方法を練り上げるチームが、好成績を上げている例が紹介される。

毎週、金曜日に、「校長通信」を全生徒と教職員に配布している。ホームページにもアップしている。内容は毎週、様々である。朝、学校の入口に立ったり、校舎内外をウロウロと歩き回ったり、授業を参観したり、行事の取組をのぞいたりすることがある。これらがきっかけとなり、週の初めの月曜日に校長室にいと、自然と書きたい内容が決まる。足でかせがないと、こうはならない。

いつも考えていることがある。今、生徒はどんなことを考えているのだろうか。担任の先生は、どんな思いなのだろうか。部活動顧問は、どんなことを考える時期なのだろうか。その人の目線で考えるようにしている。

その一方で、一つの学校を預かる校長としての思いもある。生徒よりも、保護者よりも、多くの先生方よりも、少しばかり長く生きている者としての考えもある。書いていると、生徒に語りかけるような文章スタイルになる。これが一番書きやすい。

トップダウンがいつもよくないわけではない。緊急時には、トップダウンが必要である。指示系統を一つにし、スピード勝負である。普段は、ボトムアップでよい。校長も先生方の目線で一緒に考える。よく「担任としてはどうなの」「学年主任の考えは」と聞くことがある。「生徒は、どう思っていると思う」「保護者は、学校に対して何を望んでいると思う」などと話すことがある。

私のイメージは、先生方に考えてもらいながら、人材育成をしながら、一緒に考えながらも結論は自分で出す、である。私の根底には、人材育成をしたいという思いがある。人を育てたいという願いがある。それが、自分を育ててくれた方々への恩返しだと思っている。

一言でトップダウンと言っても、いろいろである。これからも、私なりのトップダウンを考えていきたい。令和4年、2022年も終わろうとしている。読者の皆様に感謝しつつ、令和5年、2023年、1月4日より、また書き進めていきたい。